

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Severity of low pre-pregnancy body mass index and perinatal outcomes: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母親の妊娠前の低 BMI と早産、低出生体重児、Small-for-gestational age との関連

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2022 DOI: 10.1186/s12884-022-04418-3

筆頭著者名: 中西 研太郎

所属 UC 名: 北海道ユニットセンター

目的:

妊娠前の母親のやせは早産や低出生体重児のリスクを増加させることが知られているが、やせている妊婦の割合が相対的に多い集団での研究は乏しい。本研究は、母親の妊娠前の体格指数(BMI)について、特に妊娠前のやせ(妊娠前 BMI 18.5 未満)が分娩週数および子どもの出生体重に及ぼす影響について調査することを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した 92,260 人の単胎妊婦を対象とした。妊娠前の BMI を 6 群(16.9 以下、17.0-18.4、18.5-19.9、20.0-22.9、23.0-24.9、25.0 以上)に分類し、正常範囲(18.5-25.0)の中位群(20.0-22.9)を対照として、早産、低出生体重児、Small-for-gestational age (SGA: 在胎期間相当の体重よりも小さく生まれた児)の頻度との関連について検討した。

結果:

対象者のうち 15.7%が、妊娠前 BMI が 18.5 未満でありやせと分類された。BMI の 6 分類で見ると、正常範囲の中位群(20.0-22.9)の妊婦が 38.5%と最も多かった。妊娠前 BMI が 18.5 未満の妊婦は早産、低出生体重児、SGA の頻度が高かった。妊娠前 BMI が正常低値(18.5-19.9)の妊婦においても低出生体重児および SGA の頻度は高かった。妊娠前 BMI が低い妊婦に注目すると、BMI が低いほど、早産、低出生体重児、SGA の頻度が高まった。

考察(研究の限界を含める):

欧米諸国での先行研究と同様に、やせている妊婦が多い日本においても、妊娠前 BMI が低いほど早産、低出生体重児、SGA のリスクが増加することが示された。また、やせている妊婦のみならず、妊娠前 BMI が正常低値の妊婦においても低出生体重児や SGA の頻度が増加することもわかった。しかし、本研究は、母親の妊娠前の情報から検討を行っており、妊娠中の体重増加や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病といった妊娠中の合併症の有無は考慮していない。したがって、妊娠前にやせていたことに加えて、妊娠経過によって早産や低出生体重児、SGA のリスクが高まっている可能性も考慮する必要がある。

結論:

やせている妊婦の多い集団でも、妊娠前のやせの重症度と早産、低出生体重児、SGA の頻度は関連することが明らかになった。妊娠を希望しているやせの女性に対して、妊娠前から適切な体重管理を指導することで、早産、低出生体重児、SGA のリスクの減少につながることを期待できる。